



当社では今後さらに加速するグローバル化の流れに対応すべく2005年にインド 南部のトゥマクル（トムクール）市に現地法人 System Consultant Information India (P) Ltd. (以下 SCII) を設立しました。SCII はグローバルなシステム開発の拠点として、また、海外との業務において活躍できる人材を育成する為の研修施設として役割を備えています。

インドで学べ！ 海外研修 事例

株式会社 システム コンサルタント

設立

1968年8月

資本金

3億2610万円

社員数

331名

本社

東京都墨田区錦糸

2丁目14番6号

URL

<http://www.ksc.co.jp>

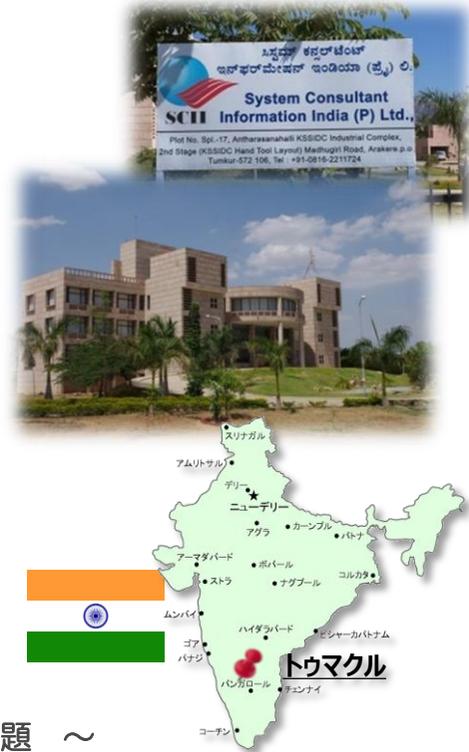
新入社員 研修 をインドで3か月！

■当社のグローバル・ビジネス

当社では1968年の設立来45年以上に渡り、主に日本国内のお客様のシステムの設計～開発を中心にビジネスを展開して参りました。昨今の動向として、グローバル化の流れが著しい中、システムのオフショア開発やその運営拠点としても海外に注目されるお客様が増大しています。当社ではこのグローバル化の流れは今後もさらに拡大する事を想定し、2002年から海外ビジネスに着手して参りました。

IT立国として名高いインド。そのインドで『シリコンバレー』とも呼ばれている南部の都市ベンガルール（バンガロール）。2005年にその近郊トゥマクル（トムクール）市内に現地法人 System Consultant Information India (P) Ltd. (以下 SCII) を設立しました。

SCII では国内企業のお客さまのシステム開発や、お客さまの海外拠点、現地法人のシステム開発を担当し、これまでインド人技術者と共に共同して豊富なシステム開発プロジェクトを行って参りました。また開発センターとしての役割だけでなく、当社の教育ビジネスとして、お客さまのニーズに合わせた教育コースをご用意し、ビジネス英語やIT技術研修、オフショア・プロジェクト疑似体験等も数多く行っております。



■新入社員 研修

～ SEの育成におけるその課題 ～

当社の社員教育におけるモットーは『企業は人材が命』『教育には時間と費用を惜しまず』。入社時点では『全員がソフトウェアは素人』との前提に立ち、毎年基礎から新入社員に対する技術教育を実施して参りました。

当社の業務はシステム開発の上流工程から担当することが多く、将来ITコンサルタントに成長する夢を抱く学生が多く応募してきます。採用実績としては約7割が文系出身者で、技術的に未経験者も多く入社します。入社前の研修等は実施せず、入社後に弊社錦糸町オフィスにおいて社内の教育ノウハウをベースにした基礎技術（情報処理基礎～プログラミング基礎～DB基礎 等）を集合教育として実施していました。

近年のシステム開発では、お客さまの業務内容が幅広くなると同時に、システムに対する要望も多様化して来ています。その結果、開発プロジェクトも大型化・複雑化しています。この様な状況を踏まえた時、新入社員を一人前のITエンジニアとして成長させる為には、コンピューターの技術力は勿論必要ですが、他にプロジェクトを運営する為に必要となる協調性・コミュニケーション力、広い視野を持った人材の育成が不可欠であると痛感していました。



そこで当社では、システムエンジニアの資質であるとも言える「物事を多面的に捉え」「柔軟性のある思考」ができる人材の育成が今後の重要な課題と捉え、新たな取り組みとしてインドでの新入社員研修を開始するに至りました。

■海外研修 ～ 新人研修をインドで3か月 ～

インド研修制度は2004年度から開始し、既に10年以上の実績を積み重ね、当社の新入社員研修として定着しました。希望者のみを募るのではなく、将来IT技術者を希望している総合職新入社員を全員、インドへ送り出します。勿論、採用ステップを通じて事前にインドでの研修は伝えておきますので、結果として、そのモチベーションの高い学生からの応募が増え、入社後の定着率が向上するという付随的な効果も得られています。

入社時点ではTOEIC等の英語スキルは特に要求はしていません。中には英語を苦手とする新入社員もおりますが、カリキュラムは基本的な英会話から始まりますので、帰国後には日常英会話程度は十分に理解できる実力を身に付けることができています。



■特別 課題 ～ 積極的に人との交流 ～

技術研修だけではなく、研修生へはインド滞在中に特別な課題が与えられます。研修の合間の時間を活用してインド人スタッフにインタビューしたり、課題内容を調査し、最終日にその成果をレポートとして各自英語で発表します。

■インド 新入社員 研修 カリキュラム

(例 5月中旬～8月中旬)

研修カリキュラム	日数	内容
◆ ビジネス 英語研修	20日	会話／プレゼンテーションを中心にした ビジネス英語の基礎
◆ プログラミング 基礎	20日	Java基礎全般・JDBC・HTML など
◆ DB&SQL言語 基礎	10日	SQL言語の基礎・SQLツールの操作・DB基礎 他
◆ プロジェクト 実習	10日	研修内容の総合的な位置づけとして プロジェクト単位でのシステム開発



■インド文化交流

滞在中は様々な場所を訪問し、インドの文化・生活・歴史に触れ、視野を広げます。

- ・現地の工科大学を視察し、学生との意見交換。
- ・ベンガルール市内視察。寺院、歴史的建物の視察など。

■インド研修の効果 ～ 感性の育成。2年目以降の成長への大きなステップに～

3か月間に渡り、英語のみの環境で研修を行いますので、英語力の習得、今後のグローバル化に対する興味、熱意を育成することができています。またインドは欧米と比較して日本との文化的な違いが大きい為、様々なギャップに直面することが多々あります。異なる文化、異なる生活習慣の中に身を置きながら生活することで、自分とは異なる考え方や価値観を持った人と接する為に必要な感性を磨く為の環境として、インド研修は最適であると言う事ができます。

インドでは現地事業所内の宿舎に滞在します。個室ではなく集団生活となりますので、仲間との連帯感、協調性の育成にも一役買っています。

新入社員はこの研修に参加する事で、物事の捉え方や考え方は人それぞれである事、その中で協調性を持って相手の意見を受け入れつつ、自分の意見を発信する術を習得しています。

インドでの3か月間の体験は、社員の2年目以降の成長に着実に大きな影響を与えていると実感しています。



株式会社 システム コンサルタント

第一営業部/国際・総合企画部

〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-14-6

TEL 03-3829-4631 FAX 03-3829-4464

URL <http://www.ksc.co.jp/service/global/>

Mail sales-info@ksc.co.jp

内容、費用等お問合わせ先